

5 リハビリテーション科臨床研修プログラム

研修期間：自由選択：(最長)35週間

研修目標：慢性疾患患者や高齢患者の管理上の要点を知り、リハビリテーションと在宅医療、社会復帰の計画立案ができる。

- ① 廃用症候群（拘縮、廃用性筋萎縮、廃用性骨萎縮、起立性低血圧、廃用性心肺機能低下等）及びその他の二次的合併症（褥創、異所性骨化、肩関節亜脱臼、反張膝等）の発生機構をよく知り、それらの予防・治療法を知り、適切な指示が出せる。
- ② 早期リハビリテーション開始の重要性をよく認識し、その実際的な進め方の指示が出せる。
- ③ リハビリテーションの適応を知り、リスク管理を行いつつ、リハビリテーションを進めていくことができる。
- ④ 家庭復帰・社会復帰の計画立案ができる。
- ⑤ 外来及び在宅医療においてリハビリテーション的見地をもって、活発で有意義な生活を目指した生活指導（家庭指導を含む）ができる。
- ⑥ 障害に対する心理的適応への援助ができる。

具体的な目標

- 1) リハビリテーション的診療法
 - ① 関節可動域テスト
 - ② 徒手筋力テスト
 - ③ 片麻痺機能テスト
 - ④ 日常生活動作テスト（バーゼル、インデックスを含む）
- 2) リハビリテーション基本技術
 - ① 正しい体位と体位変換
 - ② 関節可動域訓練（特に他動運動）
 - ③ 筋力維持、増強訓練
 - ④ 座位耐性訓練（開始基準、中止基準を含む）
 - ⑤ 床上動作（寝返り、起き上がり）訓練
 - ⑥ 移乗動作（特にベッド→車椅子、車椅子→便器）
 - ⑦ 座位、立位バランス訓練（立ち上がり動作訓練を含む）
 - ⑧ 歩行訓練（平行棒から屋外歩行まで）
 - ⑨ 装具の処方基準、適合判定、装着訓練
 - ⑩ 杖、松葉杖、歩行器の選択基準
 - ⑪ 日常生活動作自立訓練
 - ⑫ 自助具の選択基準
 - ⑬ 代償能力の開発（利き手交換訓練など）
 - ⑭ 病棟生活の指導（日中の臥位を避け、座位時間の延長を図る等）

3) 家庭復帰、社会復帰に向けての指導

- ① 在宅家庭指導（寝たきり化を防ぐ生活の活発化）
- ② 家族に対する介助法の指導
- ③ 社会復帰、職場復帰の時期の判断
- ④ 家事動作の訓練
- ⑤ 家屋調査、改造指導
- ⑥ 福祉制度、社会資源の利用法と指導

4) リハビリテーションスタッフとの協調・協力、チーム医療

- ① 理学療法士、作業療法士、言語療法士、ソーシャルワーカー等の業務内容
とリハビリテーションの具体的方針の検討
- ② これらの訓練にかかわるリスク管理
- ③ 以上を踏まえた理学療法、作業療法の指示・処方出し方
- ④ リハビリテーション専門医療施設（療育施設を含む）に患者を紹介する必
要性の判断基準